

# 中国短期大学における選択科目「ポピュラー・ソング」の教材と指導手順

## Research on Teaching Materials and Procedures for the Course “Popular Song” at Chugoku Junior College

(2010年3月31日受理)

大橋 典晶

Noriaki Ohashi

Key words : 英語教育, ポピュラー・ソング, 教材, 指導法

### 概 要

中国短期大学英語コミュニケーション学科1年生の学生を対象に、選択科目「ポピュラー・ソング」における教材の有効性と指導手順を実践的に研究した。教材の有効性については、昨年度（2008年度）との比較を行った。指導手順については、授業実践の中で改善を加えつつある手順の提案を例示した。

教材の有効性の年次比較の結果、2009年度も、2008年度同様に、学生に選曲の一部を考えさせることが、学習に対する良好な態度には有効であることが分かった。指導手順については、来年度以降も改善を加えていく予定である。

### はじめに

中国短期大学（以下、「本学」と言う）では、2008年度入学生から「ポピュラー・ソングA/B」を英語コミュニケーション学科（以下、「本学科」と言う）の専門選択科目及び他学科公開科目として導入した。2009年度入学生からは「ポピュラー・ソングA・B」を廃し、「ポピュラー・ソング」として1年生前期(他の学年・学科からも履修可)で開講している。本学科は「英語“楽”習」をキーコンセプトとして専門教育を行っており、「ポピュラー・ソング」も「“楽”習」の一翼を担うべき科目である。指導目標と選曲についての考察は、「中国短期大学における選択科目「ポピュラー・ソング」の指導目標と教材」ですでに刊行した。

本稿は、科目「ポピュラー・ソングA」と「ポピュラー・ソング」での取組を、教材の有効性と指導手順という観点からまとめたものである。タイトルでは変更後の科目名である「ポピュラー・ソング」という名称を用いている。以下においても、科目名は「ポピュラー・ソング」（本

文においては「本科目」と言う）とする。また、本稿で言う「ポピュラー・ソング」とは、英語の歌詞を持つ曲全てのことであり、音楽の専門分野における分類にかかわらず、指導者が英語学習に使えると判断した楽曲を広くカバーすることができる用語として用いている点は、前論文と同じである。

### 1 教材に対する学生からの評価の年次比較

本項では、事前アンケートによる教材の決定（選曲）が適切であったかを検証する。検証には授業後のアンケートを用いることとし、事前アンケートの結果との相関を検討することにより、選曲の過程の適切さを考察する。

授業では、曲の長さや学習者の反応によって、1曲または2曲を90分の授業で扱った。授業の最後には、その日に扱ったそれぞれの曲についてアンケートを実施し、学習者に6観点による5段階評価と感想等の自由記述を求めた。5段階評価は、「5 そのとおり(Good)」から

「1 全然(Bad)」とし、数字が大きいほど、よい選曲だったことが示されるようにした。評価の6観点とは、表2のとおりである。これらの項目の中でも、特に(2)と(3)は情意(楽しさ, リラックス)に直接関連する項目であり、考察の中での中心としたい。また、(4)では、最終的に目指している目標に近づけたと感じたかどうか

を尋ねているが、(4)については、学習者が最終目標だと意識しているかどうかは疑わしいので、あくまで参考として扱う。(1), (5), (6)については、今後の参考資料とするにとどめた。(7)は、必要に応じて考察の中で取り上げることにした。

表1 選曲のためのアンケート集計

n=14

No	曲名	アーティスト	1 知	1 歌	2 学
7	Locomotion	Little Eva	14		10
47	Sir Duke	Stevie Wonder	13		10
59	Never Had A Dream Come True	S Club 7	5		10
18	Let It Be	The Beatles	14	6	9
21	Take Me Home, Country Roads	John Denver	13	7	9
13	Daydream Believer	The Monkeys	12		9
58	The One	Backstreet Boys	6	1	9
4	Oh, Pretty Woman	Roy Orbison	14		8
60	Can't Take My Eyes Off You	Sheena Easton	14	1	8
53	I'm In The Mood For Dancing	The Norlands	13		8
15	Ob-La-Di, Ob-La-Da	The Beatles	13	3	7
57	Don't Want To Miss A Thing	Aerosmith	13	4	7
3	Itsy Bitsy Teenie Weenie Yellow Polka-Dot Bikini	Brian Hyland	1		7
39	Saturday Night	Bay City Rollers	14		6
23	Saturday In The Park	Chicago	2		6
6	Stand By Me	Ben E. King	14	7	5
25	Top Of The World	The Carpenters	14	10	5
33	Yesterday Once More	The Carpenters	14	5	5
44	Dancing Queen	ABBA	14	1	5
56	Tears in Heaven	Eric Clapton	6	1	5
24	Take It Easy	The Eagles	3		5
30	Let Me Be There	Olivia Newton-John	1		5
11	The Sounds Of Silence	Simon & Garfunkel	9		4
48	Fantasy	Earth Wind & Fire	6		4
22	It Never Rains In Southern California	Albert Hammond			4
26	All I Know	Art Garfunkel			4
37	Please Mr. Please	Olivia Newton-John			4
9	Unchained Melody	The Righteous Brothers	12		3
52	Honesty	Billy Joel	9		3
55	I've Never Been To Me	Charlene	5		3

28	Desperado	The Eagles	2		3
2	Jamaica Farewell	Harry Belafonte	1		3
10	I Want You	Bob Dylan			3
41	Swing Low, Sweet Chariot	Eric Clapton			3
54	If We Hold On Together	Diana Ross	4		2
36	I Won't Last A Day Without You	The Carpenters	2		2
42	Together Again	Emmylou Harris	1		2
5	Save The Last Dance For Me	The Drifters			2
8	Hey Paula	Paul & Paula			2
38	Sara	Bob Dylan			2
20	Imagine	John Lennon	13	4	1
19	The Long And Winding Road	The Beatles	3		1
49	Night Fever	Bee Gees	3		1
1	The Tennessee Waltz	Patti Page	2		1
29	Good-bye Yellow Brick Road	Elton John	2		1
12	When A Man Loves A Woman	Percy Sledge	1		1
34	Annie's Song	John Denver	1		1
50	The Stranger	Billy Joel	1		1
14	America	Simon & Garfunkel			1
16	Bridge Over Troubled Water	Simon & Garfunkel			1
35	When Will I See You	The Three Degrees			1
43	Come On Over	Olivia Newton-John			1
46	Love Is Blind	Janis Ian			1
17	El Condor Pasa	Simon & Garfunkel	5		
31	Piano Man	Billy Joel	3		
32	The End Of The World	The Carpenters	2		
45	Hotel California	The Eagles	1		
27	American Tune	Paul Simon			
40	Sister Golden Hair	America			
51	(What A) Wonderful World	Art Garfunkel			

表2 学習者による評価の6観点

(1)	聞いて心地よい
(2)	歌いたくなる
(3)	歌うと楽しい
(4)	英語の力がつく
(5)	他人に教えたい
(6)	後輩にも続けてほしい
(7)	その他(自由記述)

この評価アンケートと事前アンケートをまとめて表にしたのが、表3である。

表3 事前アンケートと事後アンケートの結果

実施日	実施曲のみ(実施順) 曲名	事前アンケート			学習者による実施後の評価(5段階評価の平均)					
		1 知	1 歌	2 学	(1)心地	(2)歌	(3)楽	(4)力	(5)他人	(6)後輩
4/22	Locomotion	14	0	10	4.1	4.2	4.4	3.5	3.2	3.7
5/13	Sir Duke	13	0	10	4.5	4.2	4.1	3.9	4.0	4.0
5/20	Yesterday Once More	14	5	5	4.8	4.7	4.2	4.1	4.0	3.9
5/20	Hey Paula	0	0	2	4.3	3.7	3.5	3.3	3.0	3.1
5/27	I Don't Want to Miss a Thing	13	4	7	4.3	3.9	3.5	3.5	3.9	3.7
6/03	Annie's Song	1	0	1	4.2	3.7	3.2	3.3	3.5	3.8
6/10	Hotel California	1	0	0	3.3	2.8	2.3	3.4	3.2	3.3
6/17	Never Had a Dream Come True	5	0	10	4.4	3.8	3.3	4.2	4.1	3.9
6/24	Can't Take My Eyes Off You	14	1	9	4.2	4.2	4.1	3.8	3.8	4.2
7/01	El Condor Pasa	5	0	0	3.3	2.9	2.8	3.6	3.1	3.3
7/01	Bridge Over Troubled Water	0	0	1	3.8	3.2	3.3	3.5	3.4	3.5
7/08	I've Never Been to Me	5	0	3	4.4	3.7	3.1	3.5	3.4	3.8
7/15	The Sounds of Silence	9	0	4	3.4	2.9	2.9	3.1	3.2	3.3
7/15	Jamaica Farewell	1	0	3	4.2	3.8	3.8	3.8	3.6	3.9
7/22	Tears in Heaven	6	1	5	3.6	3.3	2.3	3.3	3.7	3.5
7/22	The Long and Winding Road	3	0	1	3.6	3.3	2.6	3.5	3.3	3.5
7/29	Itsy Bitsy Teenie Weenie Yellow Polka-Dot Bikini	1	0	7	4.4	4.2	4.6	3.5	3.8	4.0
7/29	The End of the World	2	0	0	3.5	3.3	2.5	3.5	3.5	3.5
7/31	Won't Last a Day Without You	2	0	0	3.8	3.1	2.8	3.6	3.3	3.3
7/31	The One	6	1	9	4.3	4.4	4.5	4.0	4.1	4.1
平均					4.0	3.7	3.4	3.6	3.6	3.7
標準偏差					0.43	0.53	0.72	0.28	0.34	0.31

表3を基に、事前アンケート結果と事後アンケート結果の関係について考察する。前述のとおり、事後アンケートの中で注目するのは「(2) 歌いたくなる」と「(3) 歌うと楽しい」の2項目である。というのは、これら2

つの項目が、楽しく、リラックスした学習環境であることに直結すると考えるからである。表4は、表3を基に事前アンケートと事後アンケートのそれぞれの項目間の相関係数をまとめたものである。

表4 事前アンケートと事後アンケートとの相関<sup>1</sup>

2008年度	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
1 知っていた	0.37	0.61	0.63	0.20	0.40	0.45
2 歌ったことあり	0.38	0.45	0.45	0.41	0.36	0.39
3 学んでみたい	0.52	0.67	0.67	0.30	0.50	0.58

  

2009年度	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
1 知っていた	0.35	0.53	0.44	0.33	0.41	0.43
2 歌ったことあり	0.43	0.48	0.27	0.32	0.49	0.26
3 学んでみたい	0.60	0.73	0.71	0.51	0.68	0.71

(事後アンケート項目)

(1)	聞いて心地よい
(2)	歌いたくなる
(3)	歌うと楽しい
(4)	英語の力がつく
(5)	他人に教えたい
(6)	後輩にも続けてほしい
(7)	その他(自由記述)

<sup>1</sup>2008年の統計においては、事前アンケートのリストに入っていない2曲(“Never Had A Dream Come True”と“Tears In Heaven”)は、相関係数の統計から外した。

## 考 察

2009年度の結果も、2008年度の結果と同じ傾向であると言える。すなわち、表5を見ると、全ての項目間の係数が正の相関があることを示しており、なかでも、事前アンケートの「1 知っていた」「3 学んでみたい」と事後アンケートの「(2) 歌いたくなる」「(3) 歌うと楽しい」との間の値が、他と比較して、おおむね大きいことがわかる。このことから、本学科の学生に関しては、事前アンケートにより「すでに知っている」か「学んでみたいと思う」曲を選択することが、「楽しく、リラックスした環境」の中での学習を引き起こす可能性がより高いと言える。また、2008年度、2009年度共通の傾向として、「学んでみたい」ほどの質問項目についても相関係数が大きくなる傾向があり、2009年度はその傾向がより顕著になった。さらに、「歌ったことがある」との相関係数が比較的小さいという傾向も同様であった。

個々の曲に対する(7)自由記述を見てみると、曲のメロディーやリズムから受ける印象が「明るい」、「心地よい」、「暗い」などと表現され、中でも「ノリがよい」という表現が2009年度は増加した。一方で、歌詞の内容については、「悲しい」、「よい」、「気持ち伝わる」、「深い」という表現が2008年、2009年共通に見られた。「歌詞の意味をもっと(完全に)知りたい」という記述は、2009年には減少した。これは、2008年のアンケートを基に内容理解の時間を増やしたからだろうと推測される。

## 2 指導手順の提案

本項では、John Denverの楽曲“Annie’s Song”を主たる教材とした1時限分(90分)の指導実践の手順を提案する。“Annie’s Song”は、1974年にリリースされ、ジョンが当時の妻であるアニーに捧げた曲である。詩の内容が愛情表現であるので、19歳前後の女子学生が興味を持ちやすいと考えて選曲リストに加えている。興味を持って鑑賞するだけでなく、この詩で用いられている英語表現を用いて自己表現につなげられるとも考えた。曲はゆったりとしたテンポであり、また語彙も平易であるので、歌詞の聞き取りがしやすいのも教材として選んでいる理由である。

事後アンケートの結果を表3で見れば、ほぼ平均的な

スコアを得ている。2008年度も同様の結果であって、他の曲と比較して特に好まれる曲であるとは言えないが、授業中の学習者の反応は、リラックスした雰囲気の中で学習が進んでいることが見て取れた。以下に学習指導案を示したが、さらに学生からの評価が高くなるよう改善策を模索中である。

### 題材“Annie’s Song”の指導実践の手順

#### 学習指導案

##### 指導目標

- (1) “Annie’s Song”のメロディーと歌詞に親しみ、興味を持って歌詞を味わい歌うことができる(関心・意欲・態度)
- (2) “Annie’s Song”の歌詞を聞き取り、Like～、Let me～という表現が表す内容を理解できる(理解の能力)
- (3) John Denverに関する新聞記事をすばやく読み、情報を理解できる(理解の能力、知識・理解)
- (4) Like～、Let me～という表現を用いて歌詞の一節を創造的に表現できる(表現の能力)

##### 教材・補助教材

楽曲(オーディオ): Annie’s Song, とTake me Home, Country Roads

楽曲(ビデオ): Annie’s SongとTake me Home, Country Roads

ワークシート: Annie’s Songの歌詞プリント, ジョン・デンバー死亡の記事(<http://www.airsafe.com/events/celebs/denver.htm>), 作詞のためのワークシート(本稿末に添付した資料)

指導手順：

学習活動	指導上の留意点及び支援の工夫	評価
1 Warm-Up	挨拶・出欠確認等	
2 楽曲とアーティストの導入 (興味付け)	“Take me Home, Country Roads”を流してアーティスト名を尋ねる。その後、本日の教材である“Annie’s Song”の冒頭部分を流して、メロディーと歌詞に触れさせる。 可能であれば、映像を用いる。	興味を持って楽曲に耳を傾けているか。(関心・意欲・態度)
3 歌詞の内容の導入と展開		
(1) 内容の推測	(1) 文字無しで曲を聴いて内容を推測させる。Annieとは誰か、どんなメッセージかなどを推測させる。	自分なりの推測ができているか。(関心・意欲・態度)
(2) 歌詞の聞き取り	(2) 歌詞の一部を空欄にしたプリントを配付し、空欄の語句を書き取らせ、確認する。	正しく書き取れているか。(理解の能力)
(3) 歌詞の考察	(3) Like~, Let me~の表現に注意しながら、歌詞の内容を考えさせる。自分の好きな表現を選ばせる。	自分の好きな表現を選んでいるか。(理解の能力、関心・意欲・態度)
(4) 歌詞の音読	(4) フレーズごとのchorus reading, individual readingなどを行い、歌唱のための口慣らしをする。	
(5) 歌唱	(5) CDとともに歌ってみる。	進んで歌おうとしているか。(関心・意欲・態度)
4 追加知識の導入	John Denverの事故死についての新聞記事を配付し、いつ、どこで、なぜ死亡したのかを読み取らせる。	情報を正しく読み取れているか。(理解の能力、知識・理解)
5 歌詞の作成と発表	Like~, Let me~に続ける歌詞を、自分なりに作って発表させる。(資料参照)	英語を正しく使って表現できているか。(表現の能力)
6 まとめ	本日の曲の感想や新しく知った表現などを紙に書かせる。	

## おわりに

今回の研究では、選曲に関して学生を巻き込む方法が有効であることが確認された。指導手順の提案については、常に評価と改善を重ねることが重要であるので、実践を行う中で改善を加えたい。教材となる曲が変われば、おのずと指導手順も変わっていくものであるから、今後は、他の曲の指導手順についても実践研究を続けたい。

## 引用・参考文献

- 大橋典晶.『中国短期大学における選択科目「ポピュラー・ソング」の指導目標と教材』。「中国学園紀要 第8号」pp.35-43
- 白畑知彦ほか.『英語教育用語辞典』. 榊大修館書店. 1999
- 土屋唯之.「英語の歌は生きている!—くわしくやさしい名曲選」. 南雲堂フェニックス. 1996

中嶋洋一. 「英語の歌」で英語好きにするハヤ技30」. 明治図書. 2000

Lê, M. H. The Role of Music in Second Language Learning: A Vietnamese Perspective ©. 1999.

<http://www.aare.edu.au/99pap/le99034.htm>

Lems, K. Music Works: Music for Adult English Language Learners. in Lawrence, R. L. (ed.). Artistic Ways of Knowing: Expanded Opportunities for Teaching and Learning, New

Directions for Adult and Continuing Education, no.107. Wiley Periodicals, Inc. 2005.

Murphey, T. Music and Song. Oxford University Press. 1992

Schoepp, K. Reasons for Using Songs in the ESL/EFL Classroom. The Internet TESL Journal, Vol. VII, No.2, Feb. 2001. <http://iteslj.org/Articles/Schoepp-Songs.html>

資料（「Annie's Song」の指導資料のうち、作詞のためのワークシート）

**Be a Poet!**

You fill up my senses,

Like .....

Come, let me love you

Let me .....

Then talk with your friend and choose the best line to share with the whole group.

